第八	九一、三五	二、五五	九三、九〇	九三、九〇	同
計	八七七、三一	二三、八九	九〇一、二〇	九〇一、二〇	同

右表中、本校分の百二十八圓は、職員五十四人分四十三圓、生徒八百五十人分八十五圓で、去る大正四年十月二十三日付、瀬戸校長宛銀行小切手を以て送付した。尙又、明治神宮奉賛會宛には、職員より、百四十六圓三十二錢を、別途に獻金してゐる。

御容態天機奉伺

昭憲皇太后陛下御大葬遙拜式

敬悼式と遙拜式

大正三年四月九日、皇太后陛下御容態御不良に就いては、直に吉岡校長の名を以て　天機を奉伺し、同月十一日午前二時十分、遂に崩御あらせられたので、同日午後一時二十分より、雨天體操場に於て敬悼式を擧行し、五月二十四日の御大葬遙拜式は、午後八時より、　先帝陛下と略同樣の形式を以て、極めて嚴肅に執行せられた。而して大正六年四月十一日には、午前十時より、雨天體操場に於て、昭憲皇太后式年祭遙拜式も擧行された。

第八節　御卽位禮奉祝式、御大典式場跡拜觀修學旅行竝に立太子禮奉祝式

御卽位禮奉祝式

大正天皇御卽位禮奉祝式は、大正四年十一月十日午後二時より、雨天體操場に於て、いと嚴かに執行はれた。生徒の着席了るや、職員判任官及び之に準ずる者は、生徒の前列より約三尺前に一列に、高等官及び之に準ずる者は、判任官の列より約三尺前に二列に整列して、開式を待つ。既にして幹事開式を宣するや、吉岡校長、壇上に登り其旨を述べ、終つて職員前列の中央より約三尺前に着席する。やがて幹事の宣言に依り、學校長　御眞影を開扉。この間職員生徒は、體操教官の號令の下に、最敬禮を爲す。かくて教授の一名、樂器を奏し始め、第一句を終ると共に、職員生徒一同、二回齊唱。次で、幹事の職員拜賀と宣言するを待ち、學校長に依つて、一同最敬禮。拜賀終れば、高等官及び之に準ずる者の前列は右側に、後列は左側に、各二列に整列し、判任官及び之に準ずる者は、中央より分れ、右半は右側職員の後に、左半は左側職員の後に整列。生徒は體操教官の號令を以て、最敬禮を行ふ。後、學校長の　勅語奉讀、竝に訓話了るや、三たび壇上に昇りて、「天皇陛下萬歲」と唱へ、職員生徒一同「萬歲」と和し、學校長の「萬歲」に和して、一同「萬歲」、再び學校長の「萬歲」に和して、一同「萬歲」、此を以て式を了つたのである。

御大典跡拜觀修學旅行

大正四年庶務課日記には、次の如く書いてある。

十二月二十日(月曜)　曇

京都へ修學旅行一行本朝未明出發セラル文部省へ本學年一覽進達ヲナセリ

又、同課の命令簿には、小島・本田・村上・宮野・小松・西澤の各教授、松尾・池田二講師、柿田校醫、小陳・山田・伊東三書記、及び政木雇に對して、同年十一月二十四日付を以て、「生徒修學旅行ニ付京都へ出張ヲ命ズ」と記されてゐる。而して旅行の概況に關しては、龍南會雜誌にも寸言なく、已むを得ず同行の教授竝に中野現小使取締などの記憶に依る外ないが、今その話に從へば、參加生徒七百數十名は、二十日夜半、特別列車を以て途に

就き、着京後直に御所拜觀、翌日よりは自由行動を許し、同夜離洛、歸校の途に就いたと云ふ。而して旅行本部は、京都市三條小橋旭旅館と聞いてゐる。

立太子禮奉祝式

立太子禮奉祝式

立太子禮奉祝式は、大正五年十一月三日午前九時十五分より、雨天體操場に於て擧行せられた。卽ち、此日定刻、職員生徒一同着席を待ちて開式。御眞影開扉、一同最敬禮、國歌合唱二回、職員拜賀、生徒拜賀、敎育勅語奉讀、學校長奉祝辭、天皇陛下萬歲奉唱、御眞影閉扉、一同最敬禮の後閉式。

立太子禮奉祝辭

奉祝辭

赫々タル

皇祖天德ヲ立テ國基ヲ肇メタマヒテ玆ニ三千載　聖子神孫億萬年ニ繼承シテ天壤ト窮マリナク今ヤ國憲ニ率ヒ皇範ニ由リテ斯ノ守器ノ重キヲ顧ミ爰ニ承華ノ位ヲ明ニシタマフ仰ゲバ日ハ光ヲ重ネ月ハ輪ヲ重ネ星ハ輝キヲ重ヌ普天率土一人トシテ歡抃踏舞セザルモノアラムヤ

伏シテ惟ルニ　皇太子殿下英姿古ニ超エ嘉聲世ニ振ヒ其ノ德ハ剛健其ノ行ハ仁孝ニシテ自ラ聰明ノ天資ヲ備ヘ夙ニ襟ヲ虛クシテ道ヲ師傅ニ問ヒ深ク思ヲ帝王ノ學ニ潛メ以テ社稷ノ基ヲ固メ億兆ノ望ニ副ヒタマフ正ニ國運隆昌ノ日ニ際シ實ニ　皇威發揚ノ時ニ當ル乃チ臺灣樺太朝鮮ノ新版圖早ク　皇化ニ浴シ近ク支那トハ密接ノ交際ヲ保チ遠ク英露佛トハ特殊ノ關係ヲ結ビテ宇內萬國ハ仰瞻ス維レ此ノ時大正五年十一月三日ノ吉ヲトシテ千代田ノ宮城ニハ立太子禮ヲ行ハセラル　殿下ハ菊花ノ章ノ金輅ニ乘リ高輪ノ宮ヲ出デサセ　皇太子旗ヲ先頭ニ鹵簿肅々トシテ入朝シタマヘバ乃チ　賢所大前ノ儀行ハセラレテ　玉冊下授親ラ寶劍壺切ヲ傳ヘタマヒテ大禮維レ嚴ナリ古ニ曰ク慶ハ一人ニ由リ萬國喜ビヲナスト嗚呼

皇上ノ限リナキ　聖恩ニ浴シテ太平ヲ謳歌シ更ニ異日ノ太平

天子ヲ謳歌ス極天極地マタ此ノ如キ光榮アラムヤ

本校ハ爰ニ謹ミテ式典ヲ擧グ職員生徒恭シク

天皇陛下

皇后陛下　皇太子殿下ノ　聖影ヲ拜シテ　聖緒ノ彌堅ク　皇業ノ益盛ナルヲ奉祝ス顧レバ歐洲ノ空ハ戰塵漲リ戰雲尙收マラザルニ某等ハ玆ノ無限ノ福祉ニ霑レリ忭愒ハ中ヨリ發シテ榮懷ノ慶ビ譬ヘムニ物ナシ是ニ於イテカ某等ハ國體ノ尊嚴世界ニ比ナキヲ感悟スルコト彌深ク各自ラ琢磨淬勵シテ國民ノ本分ヲ盡クシ以テ天壤無窮ノ

皇運ヲ扶翼シ奉ラムノ願切ナルモノアリ感激懇款ノ至ニ堪ヘズ某等誠惶誠恐

大正五年十一月三日

第五高等學校長　正五位勳五等　吉岡鄕甫

奉祝提灯行列

かくて立太子禮奉祝として、職員生徒一同、體操場に集合、午後五時四十分出發、提灯行列を催したのである。